

【高等学校用】

令和3年度学校評価計画

学校名		佐賀県立佐賀農業高等学校	
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びの時間」等の実施により、基礎学力の定着に向けた雰囲気はできつつあるが、家庭学習の習慣化に向けた意識をさらに高める必要がある。</li> <li>・SGHの研究指定(5年間)に取り組み、多くの成果を残すことができた。今後は、その成果を継承した新たな取り組みが必要である。</li> <li>・職員の時間外勤務の縮減に向けて、職員一人ひとりの業務効率化と意識改革が必要である。</li> <li>・今後、生徒数が減少する中、生徒募集は大きな課題であり、「学校・学科の魅力づくり」と「情報発信や学校PR」にはとくに力を入れる必要がある。</li> </ul>		
2 学校教育目標	教育理念：「農は国の基」 校訓：「質実剛健、明浄真正」 教育目標：「農業の専門教育を柱とし、さまざまな教育活動をとおして、地域社会に貢献できる有為な人材を育成する。」		
3 本年度の重点目標	スローガン：「汗をかき 人と和して 己を磨く」 ～地域に根ざすグローバル人材の育成をめざして～ (1) 基本的な生活習慣の確立と「挨拶マナー・コミュニケーション能力」の向上を図る。 (2) 学校・学科の魅力づくりを推進し、地域からの信頼づくりに努める。		
4 重点取組内容・成果指標			
(1) 共通評価項目			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○基礎学力の向上と学びに対する意識向上	○「学びの時間」に主体的に取り組む生徒80%以上をめざす ○家庭学習に毎日1時間以上取り組む生徒60%以上をめざす ○基礎力診断テストでの評価を昨年度より向上させる ○自分の身の周りの整理・整頓を意識する生徒80%以上をめざす	・「学びの時間」の充実に向けた指導体制の確立 ・プテテストの事後指導の徹底 ・基礎力診断テストの事前学習の徹底、分析会の実施 ・整理整頓へ向け、各HR並びに実習の場での生徒への声かけの重視
	○職員の授業力の向上	○生徒のアンケートで、授業満足の割合を80%以上をめざす ○「わかる授業づくり」を意識する職員80%以上をめざす	・授業公開週間を設定し、他の先生方の授業の参考となる点を生かし、授業力の向上につなげる ・職員相互の授業研究を推進する
●心の教育	●「生命尊重の心」と「協働する心」の育成	○他人への「思いやり」「やさしさ」に配慮した言動をとる生徒90%以上をめざす	・日々のHRや実習等をとおした命の大切さへの理解と、他者との関わり方に向けた指導や体験活動の充実 ・全校ボランティア活動や異年齢交流の充実
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめは絶対に許されない」との意識を持つ生徒100%をめざす	・定期的なアンケートによる早期発見と組織的かつ方針に沿った対応に努める ・HRで、「いじめ標語づくり」の実施 ・常日頃から、生徒が相談しやすい関係づくりに努める
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀に誇りや愛着を感じる」生徒90%以上をめざす	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む ・地域と連携する取組や地域の課題をテーマとするフィールドワークの充実
●健康・体づくり	○感染症予防に向けた危機意識の向上	○感染症予防に向けた意識を持つ生徒80%以上をめざす	・意識向上につながる行事の在り方の検討と実施 ・「はなまる連絡帳」によるタイムリーな情報提供と注意喚起に努める
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上をめざす ○毎日朝食をとって登校する生徒80%以上をめざす	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行 ・生徒保健委員等による啓発活動
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する(ひと月45時間、年間360時間) ○ワークライフバランスに向けた意識向上	・定時退勤日の設定(水曜日) ・部活動休養日の設定 ・出退勤管理システムを活用した、自らの働き方の振り返りと見直し(効率化、時間外削減)
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○基本的な生活習慣の向上	○時間やルールを守ることへの理解と、挨拶・礼儀マナーの向上	○自ら積極的な挨拶を心がける生徒90%以上をめざす	・さまざまな場面をとおして、生徒への積極的な声かけに努め、挨拶の大切さを伝える ・日々のHRや授業の中で、時間やルール、挨拶や身だしなみの大切さを繰り返し伝える ・生徒の人格を尊重し、共感的理解を大切にしたい指導実践に努める
	○コミュニケーション能力の向上	○生徒の挨拶や生活マナー、他者との関わり方が上達したと感じる職員80%以上をめざす	
○魅力ある学校・学科づくり	○SGHの研究成果を生かした、各学科での新たな農業教育の実践(各学科でのグローバルな学びの推進)	○各学科の専門学習へ興味関心をもって取り組む生徒90%以上をめざす ○地域連携の取組やプロジェクト研究に主体的に取り組む生徒60%以上をめざす	・各学科でのグローバルな学びの推進と、「スマート農業・新商品の開発・ドローン活用」等、各学科の魅力に向けた指導内容の充実発展 ・生徒募集を意識した魅力づくりに向け、職員一人ひとりの意識高揚と職員相互の連携強化(学科・学年・各分掌の連携強化) ・学校HPの充実とタイムリーな更新
	○地域連携や特色のある取組の推進	○資格取得者数の前年度比20%向上 ○官公庁へ15名の就職、国立大学3名の合格をめざす	
	○資格取得の推進と進路の充実		

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育